



3

## Icon Made of Sand / 砂でできたアイコン #01 “Nike AIR JORDAN 1”

2021

砂、樹脂、アクリル

W300mm D300mm H 140mm

我々の消費は、異なる価値観をもった未来から一体どのように見えるのだろうか。そんな素朴な疑問に端を発する作品である。

東京のストリートカルチャーの中育った山崎のライフスタイルの中に、ナイキのスニーカーというものは常に絶対的なアイコンとして存在している。

これは、砂でできたスニーカーの彫刻だ。砂でできたNIKE AIR JORDAN 1と、アクリルでできたロゴマークでできている。

記号消費のアイコンとしての部分と機能物質としての部分を切り離し、異なる素材と時間経過を与たものである。概念を解体し、異なる時間を与えて異なる二つの要素を再構築する。

我々はアイコンを好み、アイコンと共に生き、アイコンを消費している。これは、現代に生きる我々に向けた、未来からの手紙である。

YICCA 2021 WINNING ARTI WORK (2nd place) / YICCA, Italy

[www.seiyamazaki.com](http://www.seiyamazaki.com)

Copyright seitaro yamazaki all rights reserved.



4

## Crystallization of worthless / 無価値の結晶

2021

レジン, 蝋, 顔料, 漆, 金

W240mm D240mm H 50mm

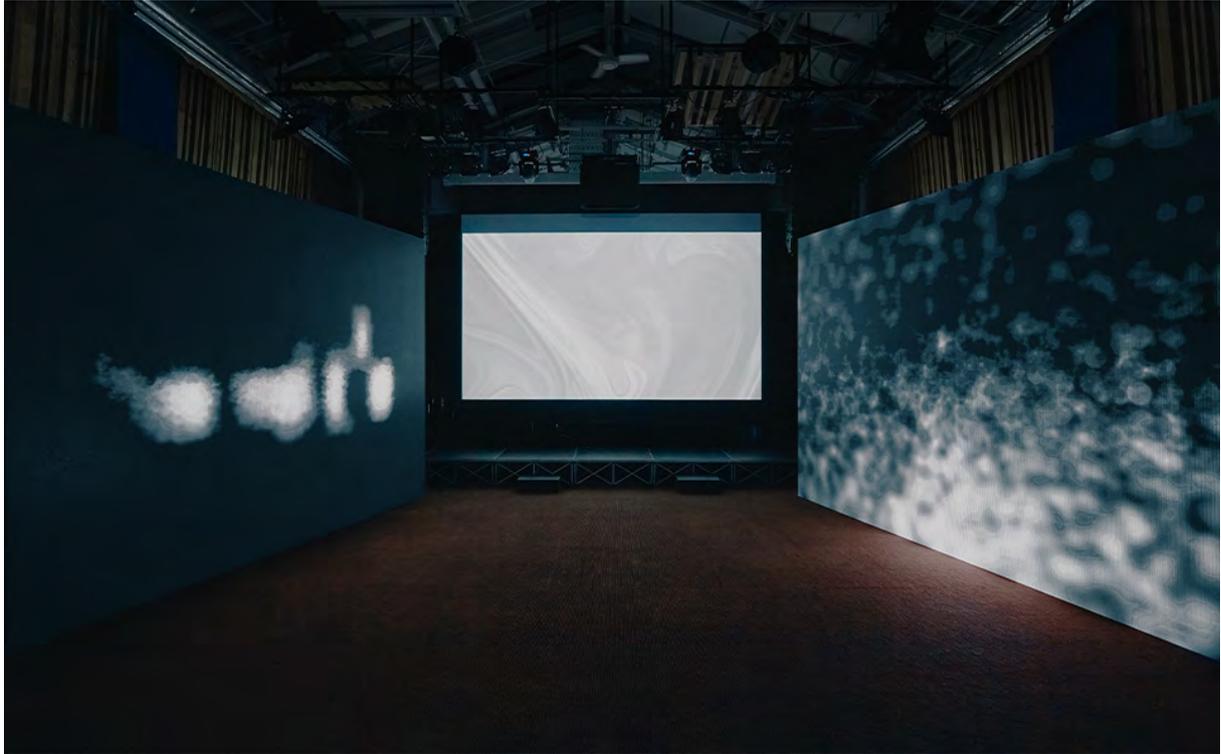
「金継ぎ」とは、日本で使われている、割れた器を修復する技術である。漆と金を使い、器の割れを繋ぎ合わせ、欠けを埋めていく。器は生活に寄り添う、用の美の結晶であり、金継ぎは、そんな器への気持ちを未来へ繋ぐもの。言うなれば、価値あるものに想いという時間を纏わせ、そのものの価値をさらに高めることに他ならない。「侘び寂び」と言う、西洋のモダニズムに似て非なる日本特有の概念。このミニマルな美しさに内包される大きな要素は時間である。

本作は、異なる時間軸を持つ素材、つまり凝固点や融点の異なる素材である、レジンや蝋、顔料を混在させながら製作したパネルが元になっている。

そのパネルの割れた偶然性に溢れた線を「金継ぎ」によって表しにし、修復していく。

生活の時間を内包しない、単なる無価値のものを破壊し、一方でその時間性だけを肯定し、未来へ継いでいく。

これは、一見価値のないものを時によって価値化する取り組みであり、無価値な時間の結晶である。



5

## “Sheet Music for Blank Space / 余白のための楽譜” #01 STEVE REICH / COUNTERPOINT

2021

プロジェクター、LED パネル、プログラムコード  
W8000mm D1000mm H 240mm

音楽は旋律を持つ。

その旋律を作る音の粒と粒の間には、無限に広がる音の深淵がある。粒と粒の間に存在する、五線譜にすくいとられることがない音の世界。

その粒の合間にある無限の音の世界を、デジタルプログラムによって動的に可視化する。

流体のようなマーブリングは、メトロノームのように一点の速度をもちながら、その図版はスケールを変え、色彩を変化させ続けていく。

黒い画面に浮かび上がる不可思議な紋様は、特定のプログラムを通してすくいとられた、可視化された音楽の部分である。

どんな音楽にもどんな音の繰り返しの中でも、同じ形状は存在しない。



## UNIT FOR Y-AXIS / Y軸のための単位

2019

キャンバス、和紙、墨、顔料、流木、ゴム、木片

キャンバスに流木 W725 H 910 D38

キャンバスに木片 W1140 H 725 D55

この世界を構成しているX軸・Y軸・Z軸の中で、重力があるが故に存在するY軸を重力から解放したら、その時どんな認識が生まれるのか？等価で均衡した三つの軸にどのような関わりと物語が生まれはじまるのか。海や地面、星といった絶対的な信頼に裏付けられているY軸を疑うための構図。相対的な社会の中に絶対的な概念として佇むこの三軸を新たに捉えなおした。

The winning artwork of 14th Arte Laguna Prize / Espronceda (BARCELONA, SPAIN)

[www.seiyamazaki.com](http://www.seiyamazaki.com)

Copyright seitaro yamazaki all rights reserved.



7

## Nameless Portrait / 名前のないポートレート

2020

アルミ、糸、あこや真珠、オーガンジー

W3000 D3000 H2400

長崎県大村湾の真珠養殖産業。かつて卑弥呼が愛したとされる宝飾品としての真珠は、今や世界中で愛されている。その流通プロセスの中で、安定した価値あるものとして提供されるため、真珠は漂白され、球として研磨され、サイズでその貴賤が測られ、統一された工業製品として流通してきた。だが、真珠が生み出されるプロセスは、工業製品のように画一化した金型から量産されるわけではなく、アコヤ貝の母貝一つ一つが命の結晶として生み出した、均一性と対極に位置する命をかけた個の結晶である。

だからこそ、私はこの工業化された産業の中にひっそりと眠る、個の物語を紡いでいきたいと思った。本作のタイトルは、「名前のないポートレート」1つ1つの真珠たちは、明確な個性をもつ。だが、その個性に名が与えられることはなく、ただただ、無個性のものとして流通されていく。もし、真珠たちが世の中に旅立つ時、そのメディウムとなったのが工業的画一性ではなく、生命的個性であったなら。そんな歴史の中で使われなかった時間を、1つの空間の中に生み出そうとするインスタレーションである。

母の胎内をイメージしたこの空間は、空気も気配も命も音も。全てが独立した価値観の中で佇んでいる。自重をささえる一本の糸は、真珠一粒一粒の人生の時間軸のように。

そしてその一粒一粒の人生は、置かれた空間に吹く風に揺られ、互いに絡まっていく。

[www.seiyamazaki.com](http://www.seiyamazaki.com)

Copyright seitaro yamazaki all rights reserved.



FOR “THE” MUSICIAN, FOR “THE” SONG /

「或る」音楽家にむけた「或る」楽曲のための祈り

2019

和紙、顔料

W780 D613 H33

山崎晴太郎と、日本を代表するギタリストである田中義人の二人による音楽ユニット、NU/NC。NU/NCの音楽づくりには、楽譜は存在せず、山崎が描く抽象的な音楽の心象を定着させた図形譜から作曲が始まり、往復書簡のように、ふたりの間を図形譜と音楽が行き来しながら、曲が出来上がっていく。

粒子という音の最小単位を顔料へ置換し、中に浮かぶ音楽の粒子を定着させた実験的図形譜作品。



## In Praise Of Shadows / 陰翳礼讃

2018

美濃和紙、香木、アイアン、ガラス灯具、スピーカー他  
W1500 H2000 (照明、フレーム含む)

「陰翳礼讃」は、繊細な和紙を切り抜いて作られたポスターで、その背面に存在する光の透過によってのみ、その文字のプロポーションが浮きあがるインスタレーションです。印刷という文字の定着剤を一切使用せず、素材と光の移ろいを通じて、空間の中に溶けるように存在する文字たち。空間のもつ仄暗さは、刹那的な文字の境界線をより曖昧にし、より魅力的に溶けていく文字の物語を浮かび上がらせます。

また、タイポグラフィ、音楽、香りは、すべて「陰翳礼讃」における静と動、明と暗、侘び寂びを表現するために制作されています。

タイポグラフィにおいては、あえて可読性を崩壊させ、文字としての形態をギリギリで保った不確かで曖昧な存在としてデザインし、漢字の読解の意味合いから逃れ、体感して初めて理解できる「陰翳礼讃」の思想を落とし込んだ形へと集約させました。

展示

Feb. 15-19, 2018 / Mono Japan 2018 / Lloyd Hotel & Cultural Embassy, Amsterdam



## OUTLINE OF FIGURATIVE / 具象の輪郭

2018

洋紙、和紙、墨、顔料

W300 D300 H20

概念を限定しない有機的な形。植物のようにも見えるが、そこに現実の植物は存在せず、それに名前  
は与えられていない。

概念が概念になる前の曖昧さ。その境界線上にある抽象的具象に向き合い、実在しない記憶の中の植  
物を定着させる作品シリーズ。具象を抽象化していくプロセスを留めた。



## ENSEMBLE CAST / 紙上の群像劇

2018

和紙、墨、顔料

W1960 D700 H30

抽象と具象の境界線をすくい取りながら、動的な死と静的な生を描いた。

抽象性と偶然性を用いて、花や植物の持つ必然的の具体に向かい合い、その概念だけを定着させようとするシリーズ作品。水墨画の古典的な筆勢と抽象画の技法を組み合わせ制作している。

具体の象徴として入れた花は、何の花でもなく、ただ花に見える概念としての花である。

偶然性の象徴である線を意図的に配置していることで、具体を想起させる偶然の集積を目指した。

重力と抽象は表裏一体である。重力を感じる抽象は、成熟した植物の瑞々しさに溢れている。抽象を明確な軸線の下で立ち上げると、そこに生命力に満ち溢れた方向性が生まれる。儚げな集積によって生まれる方向性は、生命の躍動である。

Annual Group Exhibition And Showcase Winning Artwork / J-COLLABO, New York

[www.seiyamazaki.com](http://www.seiyamazaki.com)

Copyright seitaro yamazaki all rights reserved.



## CONSUMED SELF PORTRAIT / 流通する自画像

2018

洋紙、墨、顔料

W565 D445 H60

インターネット、SNS上に溢れる、セルフポートレートの画像。フレームにはめられた無数の自画像は、情報の海の中に流通していく過程で、徐々にその輪郭を溶かしていくことになる。情報化し、流通した自分は、本来の自分の輪郭を残しているのか？鑑賞者は額縁を覗きこむことで、自身の溶けた輪郭を覗き見ることになる。



13

## 岩肌 水肌

2010

混練、成形、焼成粘土

H300 W300 D100

伝統を継いできた時間軸をテーマに、長い時間をかけて構成されてきた二つの自然の肌を瓦の形に定着させた。

多摩川の河川敷で拾った幾つかの石を焼成前の土に叩きつけ、自然が作り出した形状をすくい上げ、激しく鋭角な時間を積層した岩肌。水の中で研磨され、緩やかでなでやかで優しい岩肌をすくいとった水肌。

自然の中で生まれる二つの肌目を一つの作品の中で共存させ、八郷瓦の窯で焼成した。